

平成28事業年度

公立大学法人尾道市立大学  
業務の実績に関する評価結果

平成29年7月

尾道市公立大学法人評価委員会

尾道市公立大学法人評価委員会 委員名簿

(50音順、敬称略)

分野	氏名	現職	備考
財務	瀬戸 務	中国税理士会尾道支部幹事	
大学運営	高垣 孝久	尾道商工会議所常議員 商業委員会委員長	
教育研究	◎堂本 時夫	県立広島大学名誉教授	
地域貢献	豊田 雅子	NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事	
教育研究	萩原 泰治	神戸大学大学院経済学研究科教授	

◎委員長

## 1 年度評価の方法について

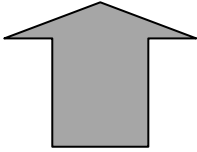
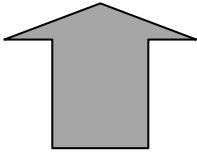
### 評価の基本方法

- 中期目標達成に向けた事業の進捗状況を確認する観点から評価する。
- 先進的・特徴的な取組や運営の改善を積極的に評価する。
- 法人化を契機とする大学改革の取組を支援する観点から評価する。
- 取組状況等を市民に分かりやすく示す観点から評価する。

### 評価の方法

- 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行う。
- 「全体評価」は、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について、次の事項を総合的に評価する。

(1) 理事長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学運営を目指した取組
(2) 社会に開かれた大学運営を目指した取組
(3) 大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組
(4) 業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況の改善に関する取組
(5) 自己点検・評価及び情報公開に関する取組
(6) その他必要と認められる事項
- 「項目別評価」は「小項目評価」及び「大項目評価」により行う。
- 「小項目評価」は法人の自己評価結果の検証・評価を行う（4段階）。
- 「大項目評価」は、「小項目評価」の結果を踏まえ、中期計画の大項目ごとに総括評価を行う（5段階）。

<p>《全体評価》</p>  <p>《大項目評価》</p>  <p>《小項目評価》</p>	<p><b>【小項目評価】</b></p> <p>評点</p> <p>4 年度計画を上回って実施している。</p> <p>3 年度計画を順調に実施している。 (達成度が概ね9割以上)</p> <p>2 年度計画を十分に実施していない。 (達成度が概ね6割以上9割未満)</p> <p>1 年度計画を大幅に下回っている。 (達成度が6割未満)</p>	<p><b>【大項目評価】</b></p> <p>評点</p> <p>S 特筆すべき進行状況にある。 (評価委員会が特に認める場合)</p> <p>A 年度計画を順調に実施している。 (全て3以上)</p> <p>B 年度計画を概ね順調に実施している。 (3以上の割合が9割以上)</p> <p>C 年度計画がやや遅れている。 (3以上の割合が9割未満)</p> <p>D 重大な改善事項がある。 (評価委員会が特に認める場合)</p>
---	--	--

○ 教育研究の特性に配慮すべき項目については、法人から提出された業務実績報告に基づき、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行った。

本評価委員会は、今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用され、「地域に根ざした、市民から信頼される大学」の実現に向けて、教育、研究及び地域貢献が一層充実することを期待する。

## 2 全体評価

公立大学法人尾道市立大学は、経済情報学部と芸術文化学部の2学部を置く公立大学法人として平成24年4月に設立された。

設立団体である尾道市が定めた中期目標を達成するため、「知と美」を探究する場、「知と美」を創造しその成果を社会に発信する場、そして学問と人間的触れ合いを通じて有為な人材を育成する場となることによって、学術・文化の向上と社会の発展に貢献することを使命としている。

法人設立後5年度となる平成28事業年度は、教育、研究、地域貢献、国際交流の重点取組項目を明確にし、理事長を中心として、自律的、効果的な事業実施が進められた。

平成28事業年度の実務の実績については、6つの大項目のうち、3項目がA評価（年度計画を順調に実施している。）、1項目がB評価（年度計画を概ね順調に実施している。）、2項目がC評価（年度計画がやや遅れている。）、となっているが、特徴のある取組として、次の事項が挙げられる。

- ① 本学学部卒業生の大学院入学における入学金免除について、平成30年度入学生からの導入を決定した。
- ② 国立嘉義大学マーケティング観光学科との留学生支援協定を締結するとともに、ベトナムの貿易大学との交流協定・留学生交換協定を締結した。
- ③ 「地域活性化計画」発表会において、尾道市の婚姻・しゅっせい届の記念証「尾道絵届」及び転入記念クリアファイルと尾道の42色のイメージカラーを使用したマスキングテープ「ONOMICHI COLOR」の2点のアイデアが具体化に至った。
- ④ 留学生の受入れ拡大のため、交換留学生を新たに6人受け入れた。また、台湾の台北教育大学への長期留学のため、1人の交換留学生を派遣した。

年度計画の一部については、若干の遅れはあるものの総合的には計画どおり実施されており、中期目標・中間計画の達成

に向けて、事業が順調に実施されたものと評価できる。

平成 29 事業年度においては、中期目標の最終年となることから、中期目標達成に向け、計画・数値目標に基づき着実に業務を推進し、成果が市民に広く周知されることを期待する。

[大項目評価結果]

	S 特筆すべき進行状況	A 計画どおり	B 概ね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり	小項目評価結果 *評価1の項目なし
第4 教育研究等の質の向上	S	A	B	C	D	4 (9) 3 (3 9) 2 (5)
第5 地域貢献及び国際交流	S	A	B	C	D	4 (8) 3 (4) 2 (0)
第6 業務運営の改善及び効率化	S	A	B	C	D	4 (0) 3 (1) 2 (0)
第7 財務内容の改善	S	A	B	C	D	4 (2) 3 (2) 2 (0)
第8 自己点検・評価及び情報の提供	S	A	B	C	D	4 (0) 3 (3) 2 (1)
第9 その他業務に関すること	S	A	B	C	D	4 (1) 3 (4) 2 (1)

中期目標・中期計画の主要な進捗状況等については、次のとおりである。

(1) 理事長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学運営を目指した取組

次の事項については、理事長のリーダーシップによる取組として評価できる。

- \* 「美術表現入門」及び「社会保障入門」の2科目を新たに開講した。
- \* COC+連携校との単位互換の取組として、平成29年度から「地域の伝統文化（囲碁）」と「瀬戸内文化論」の2科目について単位互換科目提供を行うことを決定した。
- \* 教員の研究活動を支援する取組として、サバティカル制度を平成29年度から実施することとした。

## (2) 社会に開かれた大学運営を目指した取組

次の事項については、社会に開かれた大学運営を目指した、市民や社会に対する説明責任を果たす取組として評価できる。

- \* 情報科学研究会を学内外場所は問わず、外部講師又は常勤教員が講師を務め、市民が参加可能な形で開催した。情報科学に関連することをテーマに座学形式やワークショップ形式で行った。
- \* 学内のコンピュータを使った実習形式の市民向け公開講座を、常勤教員が講師を務め、開催した。
- \* 教育機関の要望に応じて、地域の小学校や中学校において、児童・生徒向けのワークショップ（「子ども学芸員の旅」や「長江中学校での「鑑賞と制作—かたちを切り取る」など」）を開催し、地域教育機関との連携を行った。

## (3) 大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組み

次の事項については、大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組として評価できる。

- \* 経営コースにおける専門科目の「簿記原理Ⅱ」を平成 29 年度から「工業簿記」と「商業簿記」に分けることにより、より専門的な教育課程とすることを決定した。また、授業評価アンケートを各期 1 回の実施から平成 29 年度は 2 回実施することで、速やかな授業改善を図るよう取り組んだ。
- \* 科学研究費補助金等、外部資金の確保に向けた申請を促進するため、学内特別研究費への申請について、科学研究費補助金等への申請を条件とする研究費の傾斜配分制度を引き続き実施するとともに、採択率向上を目指し、採択件数を前年度の 3 件から 8 件に増加させた。
- \* 各学科教員が講師を務める教養講座、日本文学講座、美術学科体験講座、情報系講座、美術系ワークショップなど幅広い公開講座を開催した。受講者による満足度は高いとの評価を得ている。
- \* 学生の地域貢献活動における一環である「地域活性化企画」発表会から、学生のアイデアが実際に行政・企業と結びつき、2 点が具体化に至った（尾道市の婚姻・出生届の記念証「尾道絵届」及び転入記念クリアファイル、尾道の 42 色のイメージカラーを使用したマスキングテープ「ONOMICHI COLOR」）。



- \* ベトナムの貿易大学との交流協定・留学生交換協定及び国立嘉義大学マーケティング観光学科との留学生交換協定を締結した。またハワイ大学との交流協定締結に向けて準備を進めた。

#### **(4) 業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況の改善に関する取組**

次の事項については、事務運営等の改善及び効率化並びに財務状況に関する取組として評価できる。

- \* 教員の業績評価の試行を継続し、科学研究費補助金等への申請を条件とする研究費の傾斜配分制度を引き続き実施した。
- \* 外部からの収入が期待される受託研究件数が前年度の4件から14件へと大幅に増加するなど、外部資金の増額に努めた。

#### **(5) 自己点検・評価及び情報公開に関する取組**

次の事項については、自己点検・評価に関して必要な取組を行っていると同認められる。

- \* 自己点検・評価を専門に実施する委員会を設置し、大学運営の改善体制の充実を図った。また、大学の透明性を図るため、サテライトスタジオ等を活用したゼミ等の授業や展覧会・講演会の開催を通じて情報発信するとともに、SNS、ホームページ等を介して迅速な情報発信に努めた。

#### **(6) その他必要と認められる事項**

次の事項については、必要な取組として評価できる。

- \* 新たに設置した学生厚生施設「翠明館」の施設利用時間を延長し、学生の利便性の向上を図った。
- \* 学生・教職員に対する情報セキュリティ教育として、外部講師による講演会を開催する等、情報セキュリティの周知・徹底を図った。

### 3 項目評価

#### 第4 教育研究等の質の向上

**評価結果** B 年度計画を概ね順調に実施している。

評価対象項目の合計53項目のうち、3又は4の割合が90.6%であることから大項目評価としてはB評価と認められる。

#### 〔小項目評価結果〕

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
教育の質の向上に関する目標	33	0	2	22	9
研究の質の向上に関する目標	8	0	2	6	0
学生の支援に関する目標	12	0	1	11	0
合計	53	0	5	39	9

#### 【特記事項】

##### 1 教育の質の向上に関する目標

(1) 質の高い教育課程の編成

ア 「地域の伝統文化（囲碁）」を地域・キャリア系科目として平成29年度から開講することについては、囲碁の良さ

と尾道らしさが最大限活かせるものとなるよう期待する。

イ 尾道市立御調中学校による教育支援、ボランティアの要請に応え、教職志望学生が地域の教育に関わったことは評価できる。

ウ 経営コースについて会計簿記の専門科目を、より専門的な教育を受けられるよう「工業簿記」「商業簿記」に分けて実施できるよう改善に努めたことは評価できる。

(2) 幅広い視野と豊かな人間性を持ち、国際的に通用する人材の育成

ア シドニー大学の短期語学研修の参加者が倍増し、短期語学研修の参加者総数が前年度よりも大幅に増加したことは評価できる。

イ 本学を構成する学問・芸術分野の一端に多数の学生が触れることができるような教養科目として「美術表現入門」と「社会保障入門」を開講し、それぞれ 69 人(うち他学部・他学科 52 人)、128 人(うち他学部・他学科 102 人)の受講があったことは評価できる。

(3) 専門的知識と能力を身につけ、社会に貢献できる人材の育成

ア キャリアサポートセンターと連携した情報集約、採用説明会、合格者体験報告会開催などの支援により、平成 28 年度卒業生について 8 人が教員採用試験に合格し、前年度の 2 人から向上したことは評価できる。

(4) 学習効果向上のための環境整備

ア 情報システムの利用状況を把握し検証することにより、次期全学情報処理システムの仕様策定を行ったことは、評価できる。

(5) 教育力の向上

ア 教育力の向上について検証を行い、必要に応じて指針を作成し、実効性のあるファカルティ・ディベロップメント活動を推進することが期待される。

(6) 学生の受入れ

ア オープンキャンパス、キャンパスツアーにおいて、経済情報学部の特徴である 3 コース制の説明を模擬講義などで採り入れたことで、模擬講義の満足度が昨年と比べ向上し、推薦入試における志願者増につながったことは評価でき

る。

(7) 大学院教育

ア 講座の参加者数が増加する等、資格取得に学生の関心が高い公認会計士を目指せる科目を充実させるため、教員を1人採用したことは評価できる。

## 2 研究の質の向上に関する目標

(1) 研究の活性化

ア 科研申請と研究費補助を連動させる制度を実施することにより、年度計画である前年度比20%増加を達成し、採択率においても倍増したことは評価できる。

(2) 研究成果の評価

ア 研究成果を多角的多面的に把握でき、情報収集及び状況把握を行い、教育の質の向上につながるよう努められたい。

## 3 学生への支援に関する目標

(1) 学習の支援

ア 就職実践講座の参加者数が前年度と比較し減少している原因を分析し、就職活動の実態に則した日程等も考慮する中で、内容を充実させ、講座を実施させるよう努められたい。

(2) 学生生活の支援

ア チューターやゼミ教員による日常的な学生支援は一定の成果を上げているが、研修会への参加について、教員に対し職員の参加率が低い。学生に対して適切な初動体制をとるためにも、研修会等の実施方法を検討する必要がある。

(3) キャリア形成の支援

ア 外部講師を招聘し、学生自身がキャリア形成を具体的に考えられるような、キャリア形成セミナーを実施したことは評価できる。

## 第5 地域貢献及び国際交流に関する目標

**評価結果** A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計12項目のうち、3又は4の割合が100%であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

### [小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
地域貢献に関する目標	6	0	0	3	3
国際交流に関する目標	6	0	0	1	5
合計	12	0	0	4	8

### 【特記事項】

#### 1 地域貢献に関する目標

##### (1) 地域社会との連携・協働

ア ワークショップを開催し、地域教育機関との連携を図っていることは評価でき、引き続き連携を行っていただきたい。

##### (2) 地域での人材育成と学習機会の提供

ア 学生のアイデアが行政・企業と結びつき具体化に至ったことは地域の活性化に貢献しているという点で評価できる。

## 2 国際交流に関する目標

### (1) 国際交流の促進

ア 新たに留学生交換協定を締結したことは評価できる。今後締結大学との積極的な交流を期待する。

### (2) 体制の整備等

ア 今回、初めて台湾開南大学からの教員招聘ができるなど、今後の留学生拡大のために環境整備ができたことは評価できる。

## 第6 業務運営の改善及び効率化に関する目標

**評価結果** A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の1項目が、3以上であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

### 【小項目評価結果】

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
業務運営の改善及び効率化に関する目標	1	0	0	1	0
合計	1	0	0	1	0

### 【特記事項】

なし

## 第7 財務内容の改善に関する目標

**評価結果** A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計4項目は、全て3以上であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

### [小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
財務内容の改善に関する目標	4	0	0	2	2
合計	4	0	0	2	2

### 【特記事項】

#### 1 財務内容の改善に関する目標

##### (1) 外部資金の獲得

- ア 受託研究の件数増加は外部資金の増額に資するとともに、産学官連携を推進したと評価できる。
- イ 大学に対する支援者である後援会から『翠明館』の寄贈を受け、同窓会から助成金、寄附金を受けることにより、学生を支援できたことは評価できる。
- ウ 留学生倍増プロジェクトに係る補助事業補助金に採択されたことは評価できる。
- エ 科研申請では新たな教員から申請があり、申請奨励の効果が表れたと評価できる。



## 第8 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

**評価結果** C 年度計画がやや遅れている。

評価対象項目の合計4項目のうち、3又は4の割合が75.0%であることから大項目評価としてはC評価と認められる。

### 【小項目評価結果】

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	4	0	1	3	0
合計	4	0	1	3	0

### 【特記事項】

#### 1 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

##### (1) 情報公開の推進

ア 情報集約と発信の迅速化のために必要なウェブサイト管理の仕組みの構築に努められたい。また、各学科の特色を発信するために必要なウェブサイト入力の講習会をすることが期待される。

## 第9 その他業務運営に関する重要目標

**評価結果** C 年度計画がやや遅れている。

評価対象項目の合計4項目のうち、3又は4の割合が83.3%であることから大項目評価としてはC評価と認められる。

### 【小項目評価結果】

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
その他業務運営に関する重要目標	6	0	1	4	1
合計	6	0	1	4	1

### 【特記事項】

#### 1 その他業務運営に関する重要目標

(1) 安全管理体制の整備

ア 各種リスク管理マニュアルの改善と周知徹底に努められたい。